

第3期中期計画 平成29年度年度計画・実績報告

		福井高専 平成29年度 年度計画	福井高専 平成29年度 年度計画実績報告
1 教育に関する事項	(1) 入学者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・(1) 県下全中学校及び滋賀県・石川県の入学実績のある中学校を訪問し、中学校教員の高専に対する理解度とプレゼンスの向上に努める。 ・県内各中学校が実施する高校説明会に積極的に教員を派遣する。 ・Webページ全面更新やカレッジガイドなどの広報を通じて本校の各種イベントを紹介し、社会に向けての広報活動に努める。 ・本校の特徴的な実験設備を用いた公開講座や出前授業の実施を通して、科学教育の啓発と高専のブランド力向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県下全中学校及び滋賀県・石川県の入学実績のある中学校を延べ204校訪問した。 ・県内中学校が実施する高校説明会14校に教員を派遣した。 ・Webページの更新を進めており、TOPページの改訂は終了した。また、カレッジガイドなどの広報に加え、県内情報誌の月刊URALAに本校紹介ページを掲載した。 ・5月のキャンパスウォーク、8月のキャンパスツアー、10月のキャンパスリサーチの計3回のオープンキャンパスに対して計1,740名の参加者があった。 ・平成30年度入学試験説明会に計622名の参加者があった(保護者、教員を含む)。 ・推薦選抜志願者111名、学力選抜志願者224名(推薦選抜での不合格者を含む)であり、昨年度の入試倍率を上回った。 ・今年度は計20件の公開講座を開講し、ほぼ全ての参加者の好評価を得た(満足度93%)。 ・出前授業については計22件に対応した。また今春本校と連携協定を締結した美浜町の教育施設「きいばす」において実施された小学生ロボット教室において本校教員及び学生が協力し、理科の楽しさを広める活動を行った。
		<ul style="list-style-type: none"> ・例年通り、5月、8月及び10月と年3回のオープンキャンパスを開催し、本校学生のプレゼンテーションを通じて、中学生やその保護者に高専教育の良さを知ってもらう。 ・5月に行っているキャンパスウォークでは、15歳人口が減少傾向にある中、中学生だけでなく一般の参加を促すために公民館等への掲示等を行い、地域住民の本校に対する理解が深まるような取り組みを昨年度に引き続き行う。 ・10月のオープンキャンパスでは昨年度に引き続き、女子中学生及びその保護者を対象とした懇談会を盛り込む。 ・10月下旬から11月にかけて福井県内各地で入試説明会を開催する。 ・オープンキャンパス以外でも、本校受験希望者に対する学校見学に対して、積極的に門戸を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月のキャンパスウォークでは732名(うち中学生411名)、8月のキャンパスツアーでは754名(うち中学生438名)及び10月のキャンパスリサーチでは中学生254名が参加した。 ・5月のキャンパスウォークでは、公民館等への掲示等を行い、地域住民の本校に対する理解が深まる取り組みを昨年度に引き続き行い、小学生及びその保護者42名の参加があった(昨年度は21名)。 ・10月のキャンパスリサーチの中で、女子に特化した広報の一つとして本校女子学生と中学生及びその保護者を対象とした懇談会を実施し、27名が参加した。 ・10月下旬から12月初旬にかけて福井県内各地で入学試験説明会を開催した。今年度から休日にも本校会場で開催し、622名の参加者があった(保護者、教員を含む)。
		<ul style="list-style-type: none"> ・カレッジガイドなどのパンフレットに本年4月に策定し公開した3つのポリシーを掲載し、中学生及びその保護者、中学校教員に対して本校のプレゼンスを浸透させる。 ・地域広報誌を使い、幅広い層への本校のプレゼンスの浸透を図る。 ・専攻科案内パンフレットを修正し、専攻科入学試験の受験生を増やすために広報に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集要項に本年4月に策定し公開した3つのポリシーを掲載し、入学試験説明会等でアドミッション・ポリシーを中心にして説明した。カレッジガイドについては、次年度より掲載する。 ・本校ホームページに3つのポリシーを掲載した。 ・福井県内の月刊情報誌に本校の記事を掲載し、高専プレゼンス向上のためのPRを行った。 ・専攻科案内パンフレットを加筆修正した。平成29年度の受験生は29名であった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・本校のアドミッションポリシーにかなう学生が選抜できるように推薦選抜における面接内容及び作文課題を吟味する。 ・入試説明会で3つのポリシーの周知に努め、高等教育機関における自学自習の重要性を浸透させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験委員会を通じて、各学科に推薦選抜における面接内容及び作文課題を、受験生にとってより理解と表現しやすいものとするよう要請した。 ・学生募集要項に3つのポリシーを記載するとともに、入学試験説明会では、アドミッション・ポリシーを中心に中学生及びその保護者に説明を行っている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度入学生から実施している2年進級時における学科再選択制度に関する説明を入試説明会等で十分に行い、進学時の学科選択の不安解消に努めるとともに、学際領域カリキュラムにより幅広い応用力が身に着けられることを周知する。 ・新入生アンケートを実施し、入試広報委員会及び入学試験委員会で解析し、次年度の資料とする。 ・効果的な広報活動を継続的に行い、中学校と連携を取りながら、高い志と資質を持った入学志願者の確保に努める。また、中学校訪問に併せ、女性のキャリアパスを積極的にアピールし、女子志願者増を図る。 ・アンケートにおける女子学生等からの要望に基づき、計画的に和式トイレを洋式に改修し、女子学生等の修学環境改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験説明会で2年進級時における学科再選択制度に関する説明を昨年度に引き続き行っている。 ・新入生アンケート結果から、中学生の進路決定時期に応じて、最終の入学試験説明会を12月初旬の土曜日に実施した。 ・福井県内の月刊情報誌に本校の記事を掲載し、高専プレゼンス向上のためのPRを行った。 ・オープンキャンパス、入学試験説明会及び中学校訪問に併せ、キラキラ高専ガールを配布した。キャンパスリサーチ時に本校作成の女性技術者に関するDVDの配布と女子学生との懇談会を実施した。 ・女子寮(北寮)北側2階の居室において、外壁劣化により風雨が激しい時外壁から漏水するため、平成30年3月に外壁補修工事を完了した。 ・電情棟女子トイレの一部を和式から洋式(ウォシュレット付)に改修した。
(2) 教育課程の	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度入学生から実施している学際領域カリキュラムの学年進行に伴う実施内容を精査し、産業構造の多様化や技術の高度化に対応する。 ・グローバルエンジニアとなるべき人材のさらなる育成をめざし、英語科はもとより、本科、専攻科、国際交流室、キャリア支援室等と連携した小委員会を立ち上げ、海外インターンシップや海外研修への派遣学生の増加に努める。 ・本校専攻科の高度化(H31年度に1専攻へ移行)について立案し、各所に説明を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度入学生から実施している学際領域カリキュラムの学年進行に伴う実施内容を創造教育開発センターで精査し、来年度の開講に向けて準備し、11月下旬に現2年生に対して説明会を実施した。 ・グローバルエンジニアとなるべき人材のさらなる育成をめざし、英語科はもとより、本科、専攻科、国際交流室、キャリア支援室等と連携し、海外インターンシップや海外研修への派遣学生の増加に努めたが、今年度は本科生2名、専攻科生3名の海外派遣にとどまった。 ・専攻科改組に対して、10月上旬に高専機構に改組構想の書類を提出し、質問事項が12月に書面であったので、その回答をした。2月に改組に関しては「否」という通知があった。 	

第3期中期計画 平成29年度年度計画・実績報告

	福井高専 平成29年度 年度計画	福井高専 平成29年度 年度計画実績報告
編成等	<ul style="list-style-type: none"> ・3年に1度実施している卒業生・修了生アンケート及び企業アンケートを実施し、本校の教育の在り方が社会のニーズに合っているのかを検証し、カリキュラムのブラッシュアップを行う。 ・社会のニーズの動向を把握することを目的に、修了生を対象としてホームカミングデーを開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年に1度実施している卒業生・修了生アンケート及び企業アンケートを実施した。進路先からの回答は5割を超え、概ね良い評価を受けていることを把握した。 ・10月21日にホームカミングデーを開催した。本年は、修了生に講演を行ってもらった。修了生の参加は14名であった。また、参加者にアンケートを行い、これについてまとめた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習到達度試験が学生の学習意欲の向上につながるような施策を検討する。 ・4年生に対して本校で開催するTOEIC IP試験を全員受験させ英語の能力の涵養に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習到達度試験が学生の学習意欲の向上につながるように、学力強化週間中(9月26日～28日)に物理の実力確認試験を実施した。来年度から学習到達度試験がCBTでの実施となることから、今年度のCBTトライアルの状況も踏まえ、その対応策を検討したが、結論は出ず、継続的案件にした。 ・4年生に対して本校で開催するTOEIC IP試験を後期中間学力確認週間に実施し、全員受験させた。開催時期が試験期間中であったため、来年度はより早い時期での実施を計画している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートを各学期終了時にWEB入力によって実施する。また、前年度の授業アンケートに対する教員側のコメントを収集し、9月に学生へは紙媒体で、教職員へは学内グループウェアで公開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の授業アンケートに対する教員側のコメントを収集し、9月に学生へは紙媒体で、教職員へは学内グループウェアで公開した。今年度の授業アンケートを各学期末に実施した。ただし、大雪による日程変更があったため、未実施のクラスが生じた。未実施のクラスは来年度当初に実施をする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・各種コンテスト及び高専体育大会に積極的に参加するとともに、そのための環境整備に努める。学生の活動の幅を担保するため、新設のコンテストや地域と連携したプロジェクトにも積極的に参加を促し、その活動環境の整備にも努める。 ・学生のものづくり志向を涵養するため「福井高専キャンパスプロジェクト」を実施し、学生の企画立案・実施の能力涵養に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度福井県高等学校春季少林寺拳法大会兼全国高等学校総合体育大会少林寺拳法競技(5月)に出場し、2名が優秀賞を受賞した。内1名が全国大会(インターハイ)出場を果たした。 ・福井県高校将棋選手権大会(5月)男子A級の部で優勝し、全国大会出場を果たした。 ・北信越高等学校体育大会には、今年テニス、水泳、卓球、少林寺拳法がそれぞれ出場した。 ・卓球では、中部日本卓球選手権大会、全日本大学総合卓球選手権大会にも出場した。 ・全国高等専門学校体育大会(8月)では、地区大会を通過した卓球、剣道、水泳、の3競技が出場を果たした。卓球女子の部では、シングルスで優勝、ダブルスで3位の好成績を残したほか、東海北陸選抜チームとして団体準優勝を果たした。なお、シングルス優勝の学生は5年間で4度の全国制覇を果たした。 ・第41回全国高等学校総合文化祭(吟詠剣詩舞部門)(8月)に本校学生が福井県選抜チームとして出場した。 ・ふくい理数グランプリ(高校部門:物理)(9月)に出場し、最優秀賞を受賞した。 ・ロボットコンテスト東海北陸地区大会(10月)に2チームが出場し、内1チームがアイデア賞及び特別賞を獲得した。 ・この他、プログラミングコンテスト(10月)、東海北陸地区英語プレゼンテーションコンテスト(11月)、デザインコンテスト(12月)、オムロン・高専機構共同教育プロジェクトPLC制御コンテスト(12月)、小水力発電アイデアコンテスト(3月)に出場した。 ・総務省主催のG空間×ICT北陸まちづくりトライアルコンクール(11月)に出場し、4年連続入賞を果たした。 ・「福井高専キャンパスプロジェクト」の企画を募集し、7件についてプロジェクトを認めた。これらのプロジェクトに参加した学生は、活動成果をもとに12月に報告会を行った。 ・第8回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会(12月)に出場した。 ・3名の学生が「チームふくい」ジュニアアスリート強化指定選手に認定された(競泳1名、水球2名)。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のボランティア活動などの社会奉仕体験活動への周知・支援を行う。特に、各種イベントにおける清掃ボランティア等を通じて校内外の美化に関する意識を啓発・涵養する。 ・国体への支援や地域公共交通への協力等を通じて、学校と地域との関係をより密接なものとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーション(4月)では、キャリア教育の一環として会場への移動の過程に地場産業を見学できる施設に立ち寄り、食事をしながら地元に触れる機会を設けた。 ・鯖江市立神明保育所の保育ボランティア(9月)に、7名の学生が参加した。 ・高専祭期間中に例年実施している学生会主催のクリーン大作戦(10月)を計画した。このイベントは、本校から鯖江市内と越前市内の通学路を中心に商店街や住宅地、河川敷、公園などを通る4コースに分かれてゴミ拾いを行う大規模なものであるが、荒天のため実施を中止した。 ・校内にて学生が行うプロジェクト(キャンパスプロジェクト)において、校内清掃ボランティアを行う活動2件を同プロジェクトとして認めた。 ・地元行政(鯖江市)より、福井国体と全国障害者スポーツ大会(障スポ)のカウントダウンボードの製作依頼を受け、学生が中心となって2台を完成し、鯖江市から感謝状を受けた。 ・地元新聞社記者と本校学生団体との協働で「スペースバルーン」の打ち上げ活動を行い、その成果がNHK(全国)ニュースや新聞紙面上(1面を含む)で公表された。
(3)優れた	<ul style="list-style-type: none"> ・(3)優れた教員の確保 ・企業などでの豊富な実務経験者、技術士等の国家資格を有する者、及び他の教育機関での経験を有する者の採用に向けて努力する。 ・教員選考時には面接に加えて模擬授業等も課し、高専教員としての適格性を見極め、多様な価値観を吸収・活用できる組織となるよう努力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4名の教員公募を実施した結果、豊富な実務経験に加えて技術士補の資格を有する社会人のほか、1名の女性教員を含む優れた教育力を有する3名の教員を採用した。採用を見送った電子情報工学科の教員公募は、平成30年度中に準備を進める方針である。 ・教員選考時には面接に加えて模擬授業等も課し、高専教員としての適格性を見極めている。

第3期中期計画 平成29年度年度計画・実績報告

	福井高専 平成29年度 年度計画	福井高専 平成29年度 年度計画実績報告
教員の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・高専・技科大間の教員交流や三機関連携事業の経験者による報告会等を通して周知するとともに積極参加を促し、幅広い知見の習得とキャリアアップの機会を提供していく。 ・豊富な経験や高度な力量を持ち、かつ、多様な人材を確保できるように採用人事に工夫を凝らす。 ・男女共同参画の趣旨を踏まえ、女性教員の積極的な採用に向けて努力すると共に、支援制度の周知と活用を図る。 ・女性教員に配慮し、計画的に和式トイレを洋式トイレに改修するなどし、女性教員の働きやすい環境の整備を進める。 ・他の教職員の模範となるような成果等をあげている教職員による講演会を開催し、仕事に対するモチベーションの涵養を図るとともに、その他のFD講演会を積極的に開催する。 ・全国高専フォーラムへの積極的な参加を促す。 ・福井県大学間連携事業(フレックス)主催のFD研修会やワークショップへ参加する。 ・Webシラバスやアクティブラーニングに関する講習会へ積極的に参加するとともに、先進校を視察して情報共有を図る。 ・教職員の勤務意欲の高揚及び本校の活性化を図ることを目的に、職務に精励し、その功績が顕著な者を教員顕彰対象者として推薦する。また、全教職員を対象とした校長表彰を継続して実施する。 ・教育研究の発展と活性化のために、在外と内地の研究員制度の利用を奨励する。 ・「高専・技科大間教員交流制度」を利用して教員交流を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月、前年度に3機関連携事業グローバル人材育成力強化プログラムに参加した教員1名の報告会を実施した。なお、当該制度に基づく教員の受け入れ実績は無い。 ・4名の教員公募を実施した結果、豊富な実務経験に加えて技術士補の資格を有する社会人のほか、1名の女性教員を含む優れた教育力を有する3名の教員を採用した。採用を見送った電子情報工学科の教員公募は、平成30年度中に慎重に進める方針である。 ・教員選考時には面接に加えて模擬授業等も課し、高専教員としての適格性を見極めている。 ・公募においては女性優先を明記しており、電子情報工学科は採用を見送った、一般科目教室(社会科)の公募では、女性教員を採用することが出来た。 ・子育て世代の女性教員に対する時間割等で公務的な配慮を行った。 ・女性教職員及び女子学生の要望に基づき、平成30年3月に電子情報工学科3階女子便所において、1箇所和式から洋式に改修した。今後も計画的に和式トイレを洋式トイレに改修する予定である。 ・文部科学大臣賞を受賞した教員、及び昨年度の英語プレゼンで文部科学大臣賞を受賞した学生を指導した教員のFD講演会を実施した。 ・全国高専フォーラムへ12名の教職員が参加した。 ・福井県大学間連携事業(フレックス)のFD合宿研修会を本校主催で開催し、近隣の大学教員を含め延べ74名が参加した。 ・第3ブロックアクティブラーニング推進研究会に毎回教員を派遣した。また、八戸高専の自主探求に関する発表会に教員を派遣した。 ・3月のフレックス主催のティーチングポートフォリオ作成研修会に2名の教員が参加した。 ・教職員の勤務意欲向上及び本校の活性化を図ることを目的に、職務に精励し、その功績が顕著な教員2名を理事長表彰対象者として推薦したが、惜しくも選に漏れた。また、年度末には他の教員の模範となる業績を上げた教員に対して校長表彰を実施し、2名を表彰した。 ・JICAの教師海外研修(フィジー)に教員1名が参加した。 ・3機関連携グローバルSD研修(マレーシア)に若手事務職員1名が参加した。 ・教育研究の発展と活性化のために、教員に対して在外と内地の研究員制度の利用を奨励した。 ・今年度については、「高専・技科大間教員交流制度」による教員交流の実績はない。
(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム （4）教育の質の向上及び改善のためのシステム	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度入学生からモデルコアカリキュラム(Ver1.0)の完全実施となるようにカリキュラムの改定を継続的に行ってゆく。 ・平成30年度からWebシラバスに完全移行できるように、シラバスの記載方法を全教員に周知するとともに、ルーブリックの有効活用について検討する。 ・アクティブラーニングの実施状況及び教員の認識の向上を図り、教員相互に検証する機会を設ける。 ・平成28年度入学生から実施している学際領域カリキュラムの充実を図る。 <p>各学科等では、以下の取組を行う。</p> <p>【機械工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルコアカリキュラムへの対応とものづくり系科目の充実を目的とした平成26年度開始の教育課程により、3年以上の学生に対し、創造性を高め、高度な技術を活用した体験型教育を実践する。平成28年度入学生から開始した1年の専門科目の強化と高学年への学際科目の導入を目的とした新カリキュラムは、今年度2年へ導入する段階となり、科目間の連携や次年度の学際科目開始に向けた検討を進め、ものづくり系科目のさらなる充実を図る。また、モデルコアカリキュラムの全能力分野への対応とWEBシラバスへの移行に向けた検討を行う。 <p>【電気電子工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルコアカリキュラムへの対応を継続的に検討・実施してきた科目の評価を行い、必要に応じ内容を再検討し、更なる教育の質の向上を図る。また従来より取り組んできた学年毎にレベルアップするコンテスト形式のものづくりと、アクティブラーニングとの整合性について議論し、学生の主体的な学びによる問題解決能力育成環境の構築を目指す。ルーブリック等による到達度評価方法を含むWebシラバスへの対応について検討を始める。これまで取り組んできた放射線・原子力に関する学生教育を、外部資金を獲得し、継続的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度入学生からモデルコアカリキュラム(Ver1.0)の完全実施となるようにカリキュラムの改定を教務委員会で決定し、整合確認を行った。 ・平成30年度からWebシラバスに完全移行できるように、シラバスの記載方法を全教員に周知するとともに、ルーブリックの有効活用について検討し、平成29年度及び平成30年度Webシラバスの入力を完了した。 ・アクティブラーニングの実施状況及び教員の認識の向上を図るための方策について創造教育開発センターで検討し、プレゼンテーションに関するネットワーク会議を開催し、集約を図った。 ・平成28年度入学生から対象となる学際領域カリキュラムの開講科目(選択科目)のシラバスを確定し、11月末に学生に提示した。 <p>【機械工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルコアカリキュラムの分野別専門的能力への対応とものづくり系科目の充実を目的とした平成26年度開始の教育課程により、3年以上の学生に対し、創造性を高め、高度な技術を活用した体験型教育を実践した。平成28年度入学生から開始した1年の専門科目の強化と高学年への学際科目の導入を目的とした新カリキュラムは、今年度2年へ導入する段階となり、製図、工作実習、機械工作法など科目間の連携や次年度開始の学際科目について検討を行った。また、モデルコアカリキュラムの全能力分野への対応とWEBシラバスへの移行については、学校全体の方針に従い、平成30年度入学生から実施できるようにした。 <p>【電気電子工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルコアカリキュラムへの対応を継続的に検討・実施してきた科目の評価を行い、内容を再検討し、更なる教育の質の向上を図った。具体的には平成30年度のWebシラバスへの移行に対応するよう全ての科目の内容を再検討した際に、カリキュラムの見直しを行い、必要に応じて内容の変更を行った。また従来より取り組んできた学年毎にレベルアップするコンテスト形式のものづくりと、アクティブラーニングとの整合性について議論し、学生の主体的な学びによる問題解決能力育成環境の構築を目指した改善について検討した。具体的には、2年次、3年次で行われる電子工作コンテスト、ライントレースマシンコンテストとアクティブラーニングの整合性について議論し、次年度移行も継続検討とすることとした。ルーブリック等による到達度評価方法を含むWebシラバスへの対応については、今年度版の入力を終えた。これまで取り組んできた放射線・原子力に関する学生教育(特別講義等)を、継続的に実施した。

第3期中期計画 平成29年度年度計画・実績報告

	<p style="text-align: center;">福井高専 平成29年度 年度計画</p>	<p style="text-align: center;">福井高専 平成29年度 年度計画実績報告</p>
	<p>【電子情報工学科】 ・専門科目の基礎及び応用的な知識の定着に資する資格試験の積極的参加を進めるための具体的な方策を講じる。 ・現在実施している専門科目の内容を調査し、モデルコアカリキュラムが各分野項目ごとに求めているレベルを達成するように、授業内容の変更を検討していく。 ・学外のICT関連企業の技術者と協力し、アクティブラーニングを意識した実践的かつ創造性を育むカリキュラムの取組みを目指す。このために様々なコンテスト応募を継続して行う。 ・教室や自宅においても、演習室に近いPCの利用環境を実現し、座学と実験実習の連携、自主的な学習及びアクティブラーニングを推進することを目的に、今年度から3年生に導入したBYOD(Bring Your Own Device)を用いた各授業を充実を図る。また、来年度以降の3年生についても、今年度の実績を踏まえつつ、BYODの導入する準備を行う。</p> <p>【物質工学科】 ・平成28年度新入生に対してモデルコアカリキュラムに対応した教育課程を導入した。今後、実施に係る具体的課題(本学科の基軸である「コース制(材料工学・生物工学)教育課程」における専門科目のより効果的な授業内容と方法)を詳細に検討する。また、今年度は特に1年次における一般科目(化学)と専門科目(専門基礎Ⅰ)の関連性や専門基礎Ⅱ(製図等)の内容の再検討を行い、適性な導入教育の検討を行う。</p> <p>【環境都市工学科】 ・Webシラバスシステムへの本格移行を控えて、適正な評価(ルーブリック)の在り方・運用について吟味する。これにより、到達レベルの向上に益する授業内容の見直しや実践計画の立案を図る。 ・2016年10月に開示された『モデルコアカリキュラム(MCC)本案[ver.1.0]』に記載の3つの能力のうち、「技術者が備えるべき分野横断的能力」にあたる汎用的技能、態度・志向性(人間力)、総合的な学習経験と創造的思考力に関して学習内容と到達目標との整合を再確認する。 ・建築士受験資格に係る指定科目の取り扱いを慎重に検討した上で、科目名称及びシラバスの変更措置を講じるか否かを決定する。</p> <p>【一般科目教室】 (数学) ・学生の基礎学力定着と主体的な学びを促すため、これまで行ってきた様々な授業形態(ICT活用、グループ学習など)について、継続的に取り組んでいく。 ・予習及び課題による復習も含めた、自学自習による授業外の学習習慣をつけさせるように努める。 (物理) 以下のことについて、検討する。 ・授業や到達度試験に学生が自主的に学習に取り組む方法 ・コアカリのアースサイエンスの内容に対応する方策 ・物理系教員の情報共有と実験の最適な配置に関する取り組み (化学・生物) ・授業中に、演習問題を解かせ、その日の授業内容を理解させるよう努める。さらに、できるかぎり毎回授業の終わりに、簡単な宿題を出す。また昨年同様、実験回数を増やすように努める。生物については、生物に関する楽しい話題を提供し、興味を持たせる。 (体育) ・1学年で履修する保健や、4学年で学ぶ生活習慣病対策(ショートレクチャー)、及び実技授業の中で理解する運動能力に関する知識等を基礎として、体力テストのデータから体格や体力の推移を縦断的に捉え(1～4年)、考察するレポートを継続して実施する。とりわけ、レポートの考察を深めることや、部活動への応用、生活習慣の改善に資するようなスポーツ科学に関連する知見を積極的に授業の中で教授していく。</p>	<p>【電子情報工学科】 ・資格試験への参加については、基本情報技術者試験、デジタル技術検定の参考書、問題集を、2、3、4年の教室に配布し、学科教員が紹介して、受験を促した。基本情報技術者試験、MOS試験、アマチュア無線3級に合わせて3人が合格し、4名が合格したが、十分な人数ではないため、来年度も継続する必要がある。 ・モデルコアカリキュラムへの対応については、表VI D(情報系実験実習能力)、表VD(情報系分野)の全ての項目がレベル4に達することとなった。その他についても、一般科目教室との連携により必要なレベルの見通しがついた。 ・学外のICT関連企業の技術者との協力については、4年生前期のPBL科目「創造工学演習」において、昨年に引き続き、地元IT企業代表の中西氏を非常勤講師に迎えて、講義および各グループへのアドバイスを受けた。氏の指導を得て、4年生3人の学生が全国高専プロコン競技部門へ出場した。また氏の指導を受けた5年生2人が卒業研究の成果をもとに、ETソフトウェアデザインロボットコンテスト北陸地区大会へ参加した。さらに、1年生「専門基礎」においても、地元企業代表の福野氏を招いて、ワンボードPCの組み立ての実習の際に学生に助言いただいた。 ・BYODの導入については、本年度の3年生が各自購入したノートパソコンを利用して、数値計算、計算機構成論、実験など6科目で、端末演習室と並行して、教室でも授業を行った。また、学生は、それらの授業におけるプレゼンやレポート作成にも活用した。来年度以降も3年生に継続して導入するために、7月1月に、2年生に対する説明会を実施し、3月には、保護者に案内を配布した。3年生の進級に対応するため、校長裁量経費を得て、4年生教室に、有線LANポート6カ所の設置とノートパソコン充電用の電源コンセントの増設を行った。</p> <p>【物質工学科】 ・平成28年度新入生に対してモデルコアカリキュラムに対応した教育課程を導入した。実施に係る具体的課題(本学科の基軸である「コース制(材料工学・生物工学)教育課程」における専門科目のより効果的な授業内容と方法)を詳細に検討した。従来より幅の広い進路に対応できるよう、コース必修科目を両コースの学生が履修できるよう単位を学修単位化し、4年生以上に對し平成31年度より実施することとした。また、今年度は特に1年次における一般科目(化学)と専門科目(専門基礎Ⅰ)の関連性や専門基礎Ⅱ(製図等)の内容の再検討を行い、適性な導入教育に関し、専門基礎Ⅰについては教室内での演習の強化の為に教員を2名配置することとし、専門基礎Ⅱについては、物質系卒業生が必ず必要とされる引火性危険物の取り扱いなど、安全教育を充実させた内容に変更することとした。、</p> <p>【環境都市工学科】 ・建設系分野(V-F、VI-F)の科目に関して、モデルカリキュラムとの整合性を確認しながら、デジエシラバスからWebシラバスシステムへの移行を完了した。 ・6月中旬から7月中旬にかけて、キングモンクット工科大学に在籍する男子学生2名を短期留学生として受け入れ、当学科における国際交流・グローバル化の具体的な端緒を得た。 ・一級建築士の受験資格を継続するための当面の措置として「建築空間学」、「建築計画Ⅲ」を新規に開講する学則改正を行い、趨勢を見通したPDCAサイクルを実践した。</p> <p>【一般科目教室】 (数学) ・AL型の授業形態を取り入れるなど、主体的な学びを促す工夫を継続的に行えた。 ・学習習慣の定着のため、授業外学習を取り組みが行えた。 ・「基礎学力定着のため、1、2年生の成績不振者を対象とした補習を20回実施し、1年生約90名、2年生約50名が補習の対象となった。 補習では、毎回10名程度の本科4、5年生および専攻科生のTAが学習指導の補助を行った。 (TAには15～20名の学生が登録)TAには単に勉強を教えるだけではなく、答案の書き方や学習に対する姿勢を示してもらうことを期待し、説明会も実施した。 補習の方法などについて、1、2年生およびTAにアンケートを実施している。この結果を今後の補習に活用したい。 (物理) ・レポート課題や定期試験の解答解説、授業の補足説明をオンラインで参照できるようにした。 ・MCCのアースサイエンスの部分は、30年度より地理Ⅱ(共同)で対応する。 ・常勤と非常勤の週一のランチミーティングで各クラスの物理の成績状況を把握し、クラス担任への学生の状況情報伝達を円滑に進めた。工学基礎物理Ⅱの実験では、実験方法や実験室の実験装置の配置を見直した。また、レポートを可能な限り速やかに返却し、より良いレポートを作成することができるように努めた。 (化学・生物) 化学において、昨年度に比べ授業の終わりに演習問題の回数を増やすことができた。また、宿題を提出させ、自宅学習をさせるように心がけた。実験回数については今後も検討していく。 生物についてはニュース等で取り上げられる話題をできる限り提供した。また成績的にも特に問題ないと考えている。来年度以降はライフサイエンスのコアカリキュラム導入を進め、一部シラバスを改正していきたい。 (体育) ・レポート課題は1年生は全国統計や校内集計と比較した横断的データの中で自己の体格や体力を位置付ける一方、2～4年生は年次推移を踏まえた縦断的データの観点が加わり、自己の体力・体格の変化をより日常的な生活習慣課題との関連で考察を深めることができている。1年生の保健の授業(後期)における健康的な生活習慣についての学習が、4年生のショートタイムレクチャー(前期)における生活習慣病に関連する学習が各々レポートに反映され、高専生活(1年生以降)や生涯の健康的な生活(4年生)に対する各人の課題がレポートを通して導かれている。</p>

第3期中期計画 平成29年度年度計画・実績報告

	<p style="text-align: center;">福井高専 平成29年度 年度計画</p>	<p style="text-align: center;">福井高専 平成29年度 年度計画実績報告</p>
	<p>(国語) ・実社会とつながる言語表現の実践としての「手紙書き方体験授業」を行い、キャリア教育的取り組みの一環として継続して実施する。 ・弁論大会などの学校行事、または広報活動(ラジオ番組)、加えて校友会誌編集・発行に際して、学生への指導を通じた支援を継続して行う。 ・レポートを「書く」こと、評論、物語文を「読む」こと、スピーチ、議論など「話す」ことを織り交ぜ、学生たちの多様な力を養成する授業実践に努める。</p> <p>(社会) ・一昨年度来実施しているアクティブラーニングを取り入れた授業実践について、担当者間で継続的に授業見学を行いながら、その改善策を検討する。 ・前年度に実施したモデルコアカリキュラムに準拠した社会科教員間の中期的な役割分担に基づいて、授業実践に当たっての課題を精査し、併せてその解決策についても議論する。</p> <p>(英語) ・基本的な英語知識の取得と実践的な運用能力の育成を目標とした授業実践を行う。低学年においては、基礎的な文法・表現学習と、身近な話題を中心としたコミュニケーション活動をバランスよく取り入れた授業を実践する。高学年、専攻科においては、より発展的・実践的な英語運用の機会を設けた授業実践を行う。また、英語や海外に対する興味を喚起するための支援を行う。</p> <p>【専攻科】 ・技術者教育ワークショップあるいはJABEE審査員研修等に教員を派遣し、教育力のスキルアップに努める。 ・全学年で共通の教材を用いて基本的な語彙力の養成を図る。 ・自学自習の奨励の一環として、実用英語検定、工業英語検定、TOEICの受験奨励とその試験対策講座を実施する。 ・英語や海外に対する動機づけの一環として、海外での活動経験についてのセミナーを開催したり、ウェブページで英語学習法についての情報を発信したりする。</p>	<p>(国語) ・弁論大会、ラジオ番組、校友会誌編集に対する支援は例年どおり行った。校友会誌に関しては、より多くの投稿を促すため、国語科から提案して、ジャンルの再編を実施した。 ・メール課題、まとめプリント、課題作文など様々な形で授業内容の理解を促した。理解の足りない学生については個別に指導できる体制も整えた。 ・文語文法(助動詞等)、あるいは口語の敬語もただ事項を暗記するのではなく、その仕組みを理解してもらうことに努めた。 ・新たにグループ発表の時間、スピーチの時間を設けるなど、これまでの「書く」「読む」指導にくわえて、「話す」指導、プレゼンテーション指導にも神経を注いだ。</p> <p>(社会) ・今年度課題としていたアクティブラーニングによる授業実践について、歴史を中心としてレポート添削の個別指導を強化し、地理を中心として課題自習プリントを用いたグループワークを行った。社会科担当者3名が出席した11月6日、1月25日の会議にてこれらの取り組みの共有・議論を行った。 ・7月21日に社会科教員による講演会を開催し、学生に図書館及び地理情報システムを利用した調べ学習を実施した。 ・社会科担当者3名が出席した4月6日、5月10日、29日、7月4日、5日、10月16日、11月6日、1月25日の会議にて、モデルコアカリキュラムに対応した教育課程表の変更を行った。 ・2月19日の会議にて、人文系の国語・英語・社会でもつ専攻科の新科目「人間と社会」について議論を行った。</p> <p>(英語) 基本的な英語知識と実践的な運用能力の育成を目的として、以下のことを行った。 ・低学年においては、文法項目の指導と日常的な話題を中心としたコミュニケーション活動を行った。また、コミュニケーション活動の評価として、英作文レポートやスピーキングテストなどのパフォーマンステストを実施した。高学年においては、プレゼンテーション活動、TOEIC対策演習、eラーニングなど、授業だけでなく授業外での学習にも配慮しながら指導を行った。 ・全学年で共通の語彙学習教材を用いて、クラスの状況に応じて演習や試験を行いながら基礎学力の向上を図った。 ・課外活動として、定期的に実用英語検定面接対策講座、TOEIC試験対策講座、工業英検対策講座を複数回実施した。また、「イングリッシュカフェ」と称し、海外での留学経験や学習経験のある教員、学生によるセミナーを開催した。そして、4年生を対象に、TOEIC校内一斉受験を実施するとともに、試験対策教材の貸出を行い、自学自習の奨励を行った。</p> <p>【専攻科】 ・12月および2月の技術者教育ワークショップにそれぞれ1名づつ教員を派遣した。</p>
	<p>・「高専学生情報統合処理システム」の導入に向けての活動を継続する。</p>	<p>・「高専学生情報統合処理システム」の導入に向けての研修会に学生課職員を派遣した。</p>
	<p>・キャリア支援室を中心として、学生の資格取得状況を把握するとともに、資格取得を奨励する。 ・来年度のJABEE中間審査に対応するため、JABEE基準に従った自己点検書を作成する。</p>	<p>・キャリア支援室を中心として、学生の資格取得状況の集約を継続中である。 ・来年度のJABEE中間審査に向けて自己点検書を作成した。</p>
	<p>・学生の交流活動に関する情報を公開し、希望者に対しての支援を積極的に行う。 ・主として県内の大学等との連携事業(Fスクエア)を奨励する。 ・学生と学外の人たちとの積極的なコミュニケーションの場を設けるため、学生に出前授業や公開講座等へのスタッフとしての参加を促す。 ・体育系の部活動において舞鶴高専との交歓試合を実施し、交流を深める。 ・学校(学生)と地域との協働事業を推進する。 ・他高専学生寮との交流活動を引き続き推進することで、寮生会活動の充実と質的向上を図る。 ・海外からの短期留学生の受け入れに対し、受け入れ態勢を整備する。また、日本人寮生との交流会を実施し、双方の国や学校に関するプレゼンテーションなどを通じて、寮生の知見を深めるとともに、コミュニケーション能力の向上を図る。</p>	<p>・20件の公開講座(21名の補助学生)を実施した。 ・キングモンクット工科大学から環境都市工学科へ、プリンスオブソクラ大学から機械工学科へ短期留学生を受け入れ、本校学生との交流を図った。 ・越前町へ研修に来たマレーシアからの大学生15名と本校留学生との交流を図った。 ・体育系の部活動において舞鶴高専との交換試合(5月)に、男女バスケットボール、男子バレーボール、サッカー、柔道、剣道、バドミントン、ハンドボールの7競技を実施し、交流を深めた。 ・高専祭(10月)の1企画として、地域との協働事業となる「宿泊訓練」及び「災害時グルメコンテスト」を実施した。これは本校の学生(高専祭実行委員会)が福井県防災士会等と協働で企画しているもので、今年度で6年目となる。今年度は本校学生9名及び地域住民25名(他外部からの審査員2名)が参加し交流を深めた。 ・22件の出前授業において、延べ31名の学生がスタッフとして出前授業を支援し、延べ1,005名の参加者と交流した。また、公開講座では、現段階で20講座において、延べ21名の学生がスタッフとして支援し、延べ221名の参加者と交流した。 ・6月24日から25日にかけて、久留米高専の寮務主事補1名と寮生5名を本校に迎え、寮生会交流会を実施した。また、学生寮内だけでなく、校内も視察していただき、学生寮以外の点についても意見交換をすることで、双方の知見を広めることができた。 ・12月15日から16日にかけて、石川高専学生寮に伺う形で、学生寮交流事業を実施した。引率者2名、寮生8名が参加し、学生寮だけでなく、校内も見学させていただいた。他校の様子を間近で見ることができ、寮生・教員ともども良い知見を得た。 ・平成30年度の寮生会交流事業を豊田高専との間で実施することとなった。 ・5月29日から7月21日にかけて、タイから短期留学生男子1名を受け入れた。また6月19日から7月14日まで同じくタイのキングモンクット工科大学から短期留学生男子2名を受け入れた。受け入れに際し、かねて整備していた無線LANシステムを本格的に活用した。7月13日には3名の短期留学生との交流会を開催し、寮生会役員を中心に20名程度の寮生が参加し、交流を深めた。交流会ではパワーポイントを用いた母国や母校の紹介も行ってもらっている。</p>

第3期中期計画 平成29年度年度計画・実績報告

	福井高専 平成29年度 年度計画	福井高専 平成29年度 年度計画実績報告
	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教員が個々に行っている特色ある教育実践例の内容をFDの一環として他の教員に紹介する場を多く設ける。 ・専攻科におけるエンジニアリング・デザイン能力育成科目「創造デザイン演習」、英語力育成科目「現代英語」、「技術者英語コミュニケーション演習」の授業内容及び評価方法を継続的に改善することを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期には文部科学大臣賞を受賞した教員、昨年度英語プレゼンで文部科学大臣賞を受賞した学生を指導した教員、後期には学生の校外活動を指導してきた教員及び海外へ派遣された職員のFD講演会を実施した ・本校の研究・教育について知ってもらうための企画「高専カフェ」を10月から1月まで計4回、毎月第2金曜夜に実施した。 ・”KOSEN(高専)4.0”イニシアティブの一環として、「創造デザイン演習」において、地域の企業や自治体における問題等から学生が課題を設定し、それを解決するPBL演習を実施した。テーマは、「農工連携」「放射線教育」「防災・減災」で、各企業の方、自治体の方からアドバイスをいただき、課題に対して提案を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・評価を継続的に実施し、報告書を作成しホームページにて公表する。 ・平成31年に予定している認証評価受審に備え、プロジェクトチームを立ち上げ、教育システムの再点検と関係資料の整理など準備作業を開始するとともに情報の共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・評価を継続的に実施し、報告書を作成しホームページにて公表した。 ・7月、外部有識者会議を開催し、本校の教育研究目標・計画、自己評価、その他本校の運営に関する重要事項について審議・評価を受け、貴重なご助言を頂いた。 ・平成31年に予定している認証評価受審に備え、プロジェクトチームを立ち上げ、教育システムの再点検と関係資料の整理など準備作業を開始するとともに、都合6回のWG会議を開いて情報の共有を図った。また、今年度に受審した高専3校からの情報の収集に当たった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻科でのインターンシップは必修単位である。また、本科では選択科目であるが、例年ほぼ全ての学生がインターンシップを履修しており、積極的な指導を継続する。 ・公募型のインターンシップが増加したため、インターンシップ先の確保が困難であるが、担当教員間の連携を密に行い、対応を図る。 ・インターンシップ事前研修、及び実習終了後の報告会を行う。 ・インターンシップ先には本校教員が分担して訪問し、実習生の状況を把握すると共に、就職開拓及びインターンシップ受入先企業の確保につなげる。 ・本校主催のキャリア教育セミナー(合同企業説明会)において、地元企業の参加を促し、インターンシップ先の確保に努める。 ・産学連携コーディネーターも活用し、キャリアアップを目指したインターンシップを推進する。なお本件は福井県に採択された「県内の大学等における学生の定着促進事業」に基づき実施する。 ・専攻科の学生を対象として地元企業に根ざした海外インターンシップへの促進を図る。 ・専攻科の学生を対象として、地元企業の海外拠点を活用したインターンシップへの促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻科生30名、本科生186名のインターンシップを実施した。 ・7月19日にインターンシップ事前ガイダンスを実施した。インターンシップ報告会を10月から11月にかけて全ての学科で開催した。 ・8月～9月に本校教員がインターンシップ受入先を訪問した。受入先の担当者と直接面談し、企業との連携を図っている。 ・本校で開催したキャリア教育セミナー(3月5日)の参加案内を、地元企業が多数を占めるアカデミア会員企業58社に対して送付し、このうちの40社が参加した。このキャリア教育セミナーでは、各企業のブースでインターンシップの説明も行っており、インターンシップの促進に繋がっている。 ・3月5日に開催したキャリア教育セミナーで、昨年度初めて導入した本校地域連携アカデミア会員企業の出展料を一定額割引制度を引き続き適用した。その結果地元企業約40社が参加した。 ・福井県の補助金「県内大学の地域人材育成支援事業」に基づいて産学連携コーディネーターを活用し、関係企業へのインターンシップ依頼及び産学協同研究案件の掘り起こしを行った。 ・地元企業(2社)にかかる海外拠点において、専攻科学生2名がインターンシップを行った。これも福井県の補助金「県内大学の地域人材育成支援事業」を活用して実施した。 ・専攻科インターンシップのうち、海外インターンシップを行った学生は2名であるが、土木系の海外インターンシップを行う企業がないため、11月にシンガポールに赴き開拓を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> ・本科のものづくり系実験実習科目において知的財産の専門家を任用し、知的財産教育を行う。また、専攻科1年生等を対象に知的財産に関する講習会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本科2年生の電気電子工学実験Ⅰで「アイディアモーターコンテスト」を実施したが、その際に本校で雇用している知的財産コーディネーターに同席してもらい、知財に関する教育を実施した。また専攻科1年生にあっては8月に外部から知財の専門家を招いて企業研修(インターンシップ)を受ける際の注意点など知財取り扱いの実際について教育した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡技術科学大学「アドバンスコース」の推進に継続的に協力する。 ・長岡・豊橋両技術科学大学との「三機関が連携・協働した教育改革」の推進に協力する。 ・ISATE2017(シンガポール・ニース・ポリテクニク)に教員を参加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡技術科学大学「アドバンスコース」に4学年5名、5学年1名の学生が申請した。 ・ISATE2017(シンガポール・ニース・ポリテクニク)に教員1名が参加した。 ・ISATE2017(シンガポール、9/19～22)に教員1名が参加し、研究成果を発表した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業等へのICTおよびAL活用に積極的に取り組むため、創造教育開発センター内に立ち上げたWGの活動を継続し、先事例と活用法のデータを収集・公開する。 ・ICT導入・活用のためのインフラ整備(Wi-Fi回線容量の増強)に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Webシラバス及びMCC対応の作業のため、授業等へのICT及びAL活用について一部の教員の取組に限定された。 ・ICT導入・活用のためのインフラ整備を継続的にしている。 ・8月23日に導入された統一ネットワークへの切替えに伴い教室でのWiFi環境もアクセスポイントなどの更新を行った。しかしながら、ネットワーク認証機能については、導入業者の対応の遅れから、H30年度4月移行に改めて動作検証・導入を行うこととなった。 ・アクセスポイントへの利用集中時の対策として、状況に応じて設置可能なアクセスポイント機器の環境を構築した。 ・H32年度に予定されている次期教育用システムの更新を踏まえBYOD導入に向けた問題点の確認・検討を行った。

第3期中期計画 平成29年度年度計画・実績報告

	福井高専 平成29年度 年度計画	福井高専 平成29年度 年度計画実績報告
<p>(5) 学生支援・生活支援等</p> <p>（5） 学生支援・生活支援等</p>	<p>・(5)学生支援・生活支援等</p> <p>・学生に対してきめ細やかな対応をするため、メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援のさらなる充実を図る。</p> <p>・学生相談室においてメンタルヘルス関連のアンケートやハイパーQUテストを実施し、学生の状況把握に努める。</p> <p>・校内外におけるメンタルヘルス関係の研修会等へ関係教職員を積極的に派遣し、情報共有と教職員の資質向上に努める。</p> <p>・カウンセラーや精神科医とも連携し、支援の必要な学生に対して適切に対応できるように学生相談体制の充実を図る。</p> <p>・卓越した学生に対する授業料免除を継続して実施する。</p>	<p>・「STOPいじめ」と題しいじめ防止パンフレットを作成し、全学生に配布した。</p> <p>・9月から10月にかけて保護者アンケートを実施した。</p> <p>・学生相談室において学生のメンタルヘルスマネジメントを十分に行うため、専攻科生も含めた全学生対象に、ハイパーQ-Uテスト(6月)、高専生活に関するアンケート(10月)を実施した。</p> <p>・メンタルヘルス対応のために、精神科医が7回来校し、相談業務を行った。</p> <p>・新入生オリエンテーション(4月)において、1年生の全学生を対象に、学生主事、学生相談室長等が高専の学生としての心構え、学校生活の過ごし方などについて説明した。特に、ネットトラブル防止の観点で3時間に及ぶワークショップを行い、意識を高めた。また、全校集会の場においてネットトラブル防止に関する注意喚起を行った。</p> <p>・年度当初に、1年生の全クラスを学生相談室長及び看護師、カウンセラーが訪問し、カウンセリング体制についての紹介を行った。</p> <p>・教職員を対象としたメンタルヘルス研修会(9月13日)に、福井大学保健管理センターの医師高橋哲也先生を講師に迎えて「思春期・青年期の心の病」と題した講演会及び意見交換会を実施し、教職員60名が参加した。</p> <p>・教職員を対象としたFD研修会(9月29日)に、上級カウンセラーの川村信治先生を講師に迎えて「ハイパーQUテスト結果分析講習会」と題した講演会を開催し、32名が参加した。なお、川村先生には8月にハイパーQUテスト結果についてのクラス毎のアセスメントも行っていただき、各担任の先生にアセスメント結果を通知した。</p> <p>・学生相談に関するスキルアップのために、自殺予防やいじめ防止を含む県内外16の研修会に延べ21名が参加した。</p> <p>・卓越した学生に対する授業料免除を継続して実施し、本年度は2名の学生を選定した。</p> <p>・特別支援室を継続的に運用し、身障者1名に対して教室の配置やバリアフリー化について配慮し、自閉症スペクトラム学生1名に対して授業(実験)等での支援について配慮した。</p> <p>・教員会議等において機構資料等を用いて自殺やいじめの動向及び適切な対応について情報を共有した。</p>
	<p>・学内も含めた今後の入寮希望者数を予想し、そのために必要な居住棟の増設と、浴室や食堂などの関連施設の改修、ならびにシャワー室などの整備について、検討するとともに、機構に対して整備を要望していく。</p> <p>・居室も含めた施設全体の老朽化の状況を調査し、その結果を基に、早急な対応が必要な箇所については随時対応しながら、今後の改善について検討を行う。特に男子浴室の老朽化と狹隘化、寮生食堂設備の老朽化対策について検討を行う。</p>	<p>・寮生会と共同で、特に浴室の整備の一環としてシャワー室の新設について、継続して検討してゆく。</p> <p>・施設全体の老朽化について、随時調査するとともに、毎月開催している役員区長会でも情報を収集しており、改修・整備など対応している。具体的には、女子寮浴室のグレーチング交換、ベッド破損状況調査と修理、東寮補食談話室の畳交換などが挙げられる。なお、ベッド破損状況調査については、ベッドの更新についての検討に役立てており、一部ベッドについては、更新を行っている。</p> <p>・防災対策の一環として、南寮火災受信機の東寮寮監室への移設を行い、一元管理を可能とした。</p> <p>・セキュリティ対策として、各フロアに防犯カメラを新設し、システムの刷新を図った。</p> <p>・学寮内の男子浴室用ボイラーが故障し修理不能となり、更新した。</p>
	<p>・独立行政法人日本学生支援機構などと緊密に連携し、各種奨学金制度などの学生支援に係る情報を学生に提供する。周知方法については、掲示物の工夫だけでなく、電子掲示板等での即時性を確保した伝達方法を工夫する。</p> <p>・産業界等の支援による奨学金制度に関する情報をホームページあるいは掲示等で学生に提供する。</p>	<p>・日本学生支援機構等の奨学金制度などについて、掲示板(電子掲示板を含む)での周知とともに担任を経由して周知を図った結果、日本学生支援機構奨学生は33名、その他奨学生は21名であった。また、入学料徴収猶予許可者は3名、授業料免除対象者は、全額免除延べ38名、半額免除延べ49名、卓越した学生全額免除は2名であった。</p>
	<p>・昨年度に本格導入した大学間連携共同教育推進事業で開発された「進路支援システム」の周知を図り、学生による自主的な進路情報の取得に対する利便性を向上させる。</p> <p>・就職・進学試験の受験報告である帰校届の提出方法を電子ファイルに変更し、就職・進学情報の電子化を進めることで利便性を改善する。</p> <p>・大学・大学院合同説明会及びキャリア教育セミナーを開催する。</p> <p>・卒業生を招請しての先輩講座を効果的に、積極的に行う。また、進路の決定した在校生の経験を本科2年生に伝える先輩フォーラムを実施する。</p> <p>・女子学生のキャリア教育のため、上記の先輩フォーラムにおいて、講師として女子学生を登用すると共に、1年の女子学生に向けて「高専女史百科Jr.」を配布し、キャリア形成への意識向上を図る。</p> <p>・専攻科1年、本科4年生を対象にして、就職対策講座を実施する。</p> <p>・求人説明に訪れる企業の受付はキャリア支援室が一括して担当し、企業側の希望に沿った対応になるよう調整を行うことで、継続した求人の確保に努める。</p>	<p>・進路支援システムの利用案内を各教室に掲示するとともに、全学生に配付する進路のしおりにも掲載し、自主的な進路情報の取得を促している。</p> <p>・本年度より帰校届を電子化し利便性を向上させた。</p> <p>・10月28日に、9大学、8大学院、1高専が参加した大学・大学院合同説明会を開催し、3月5日には149社が参加したキャリア教育セミナーを開催した。</p> <p>・2年生全員を対象として、6月29日に先輩講座を開催した。また、11月16日には2年生を対象として先輩フォーラムを実施し、低学年からのキャリア形成に対する意識の向上を図った。</p> <p>・これまで3年生以上に配布していた進路のしおりを、キャリア形成の手引きを含む内容に改め、全学生に配付し、キャリア形成に対する意識の向上を図った。</p> <p>・上述の先輩フォーラムの講師を務める先輩学生に女性を6名含めることで、女子学生に対するキャリア支援を進めた。</p> <p>・「高専女史百科Jr.」は、女子学生のほとんどが入学前に受け取っていたため、配布を中止した。</p> <p>・12月14日に本科4年の女子学生11名が参加した女子学生向けキャリア形成とメイク講習会を開催し、理系女子の人生設計とビジネスマナーおよび就活メイクの講習を行い、女性に対する支援と職業意識の向上を図った。</p> <p>・2月28日に、本科4年生191名及び専攻科1年生30名を対象として、身だしなみや面接の実演指導などを内容とする就職対策講座を実施した。</p> <p>・求人のための企業面談はキャリア支援室で一括して受付し、面談の調整を行った。求人面談を行ったのは717社である。</p>

第3期中期計画 平成29年度年度計画・実績報告

	福井高専 平成29年度 年度計画	福井高専 平成29年度 年度計画実績報告
(6) 教育環境の整備・活用 (6) 教育環境の整備・活用	(6)教育環境の整備・活用 ・本館1階にある現在休止状態のボイラー室を、PBL教育並びにアクティブラーニングが実施できる多目的演習室として改修し、スペースの有効利用を図る。また、ボイラー室を含む1階部分及び2階渡り廊下部分は耐震性が低いため耐震改修を行うとともに外壁・外部建具改修を実施する。 ・一般教育棟(教室)3階合併教室をPBL教育並びにアクティブラーニングが実施できる多目的演習室に改修する。	・施設の有効利用として、本館1階にある現在休止状態のボイラー室を、PBL教育並びにアクティブラーニングが実施できる多目的演習室として、平成29年12月22日に改修した。特徴として、大きな荷物等の搬出入のための電動シャッター(透明ガラス付)及び作付けの収納棚やホワイトボード・ピクチャーレールを設置し、ものづくりを主眼に置いた多目的な使用方法に配慮した設計となっている。 ・ボイラー室を含む1階部分及び2階渡り廊下部分は耐震性が低いため耐震改修を行い併せて内部改修及び外壁・外部建具改修を実施し、建物の安全安心を確保し、施設の長寿命化に配慮した。 ・一般教育棟(教室)3階合併教室を、PBL教育並びにアクティブラーニングが実施できる多目的演習室として平成29年10月20日改修を完了した。
	・第一体育館アリーナ部の高天井照明器具の耐震対策を実施する。	・平成29年9月15日に、第一体育館アリーナ部の高天井照明器具取替(LED化)+耐震対策工事を完了した。
	・PCB廃棄物については、ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法等に基づき、適切な保管に努める。平成29年度は高濃度PCB廃棄物処理を実施する。	・平成30年3月30日をもって、福井高専が保管していた高濃度PCB廃棄物及び低濃度PCB廃棄物全ての処理を完了した。
	②-1 実験・実習開始当初に安全教育を行うことを徹底する。 ②-2 各実験・実習の現場でのヒヤリ・ハット事例を収集する等、「実験実習安全必携」に代わる本校独自の安全教育資料について検討する。	・実験・実習開始当初に必ず安全教育を行うことをシラバスに明記し徹底させている。 ・就業環境について月1度の定期巡視を行い、危険箇所の把握と指摘、状況改善を継続的に行った。 ・救命救急法の講習会を年2回実施し、学生及び教職員が緊急対応の研修を受講した。
	・女性教員等に対して、高専機構による研究活動を支援する研究支援員配置事業の周知を行い、同事業の促進を図る。 ・女性教職員の就業環境を個人の状況に合わせて考慮し、ワークライフバランスを推進する。 ・育児や介護等による休業を取得しやすい環境づくりに努めると共に、個人の要望に基づき支援員の配置を要請していく。 ・引き続き女性教員の比率向上に努める。	・女性教員等に対して、高専機構による研究活動を支援する研究支援員配置事業の周知を行ったところ、1名の採択を得て研究支援員を配置した。また、総務省のSCOPE採択を得た女性教員による研究支援員の雇用要請を受けて1名雇用し、平成30年度も継続する予定。 ・平成29年度については、女性教員の育児休業取得の実績はないが、取得しやすい環境整備に努めている。また、女性職員2名が育児休業を取得し、うち1名は平成30年度も継続の予定。 ・教職員の就業環境を個人の状況に合わせて考慮し、ワークライフバランスを推進する。 ・毎年7月、校長が全教員と、課長及び技術支援センター長が職員と面談を実施し、教職員一人一人から要望等を聞く場を設けている。 ・教員を公募する際、「女性優先」と明記し、女性教員の比率向上に努めている。
2 研究や社会連携に関する事項	2 研究や社会連携に関する目標 ・テクノセンター主催のJOINTフォーラム、アカデミア会員企業見学会、技術懇談会、産官学交流会を開催し、地域の企業や官公庁との連携を図る。また全国高専フォーラムなどで本校の産官学連携活動や共同研究の成果を発表する。 ・外部資金の情報を積極的に提供し、資金獲得に向けて努力を行う。 ・県外で開催が計画されているTechBizExpo、県内で開催予定のJOINTフォーラムや北陸技術テクノフェアにおいて共同研究の成果を発表する。また産学連携コーディネーターを任用して共同研究の受入を促進する。 ・知的財産コーディネーターを採用して卒業研究や特別研究から職務発明に結びつける仕組みを検討する。また、教員対象の知的財産・技術相談講習会を実施する。 ・本校の産官学連携活動と教職員の研究シーズを紹介する冊子「JOINT2017」を発行する。 ・研究設備と研究設備利用規則を掲載した冊子「ラボガイド」を活用し、共同研究の推進に努める。 ・本校の特徴的な実験設備を用いた公開講座の実施を通して、科学教育の啓発と高専のブランド力向上に努める。 ・文化・歴史・語学等人文系の講座も幅広く開講し、「KOSEN Cafe」として地域への浸透を図る。 ・地元自治体並びに小中学校や公民館等と連携し、ものづくりやデモ実験を中心にした出前授業や科学イベントに積極的に参画して理科教育支援と本校のプレゼンス向上に寄与する。	・8月21日～23日に開催された全国高専フォーラムにおいて共同研究の成果等を3件発表した。また「JOINTフォーラム2017」を12月6日に開催し、本校として産学連携の情報発信を行った。 ・機構本部等からもたらされる外部資金の情報を学内で共有し、資金獲得に向けての努力を継続的に行った。 ・12月に学内で開催したJOINTフォーラムにおいて、本校で実施されている共同研究事例を2件発表した。また産学連携コーディネーター1名を継続して任用しており、共同研究の受入れ促進に努めた。 ・アグリビジネス創出フェアにおいて、農工連携分野の研究事例のポスター発表を行った。また学内で農工連携研究者を集めてミーティングを行い、情報の共有に努めた。 ・知的財産分野のコーディネーター1名を継続して雇用し、学生の教育面だけではなく教職員に対して職務発明に関する支援業務を行った。 ・6月に本校の産学連携関係冊子「JOINT2017」を発行した。 ・学内の研究設備を紹介する冊子「ラボガイド」を学外に積極配布し、関連設備の外部利用や共同研究の推進につながるよう努力した。 ・今年度は計20件の公開講座を開講し、ほぼ全ての参加者の好評価を得た(満足度93%)。 ・10月から4回の予定で理工系だけでなく幅広い分野にわたる市民向け講座「KOSEN Cafe」を実施し、学内外からの参加者に好評であった。 ・出前授業については計22件に対応した。また今春本校と連携協定を締結した美浜町の教育施設「きいばす」において実施された小学生ロボット教室において本校教員及び学生が協力し、理科の楽しさを広める活動を行った。

第3期中期計画 平成29年度年度計画・実績報告

	福井高専 平成29年度 年度計画	福井高専 平成29年度 年度計画実績報告
3 国際交流等に関する事項	<p>3 国際交流に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ISATE2017(シンガポール・ニーアン・ポリテクニク)に教員を参加させる。 ・JICA北陸の教師海外研修に教員を参加させる。 ・本校協定校のプリンスオブソクラ大学工学部(タイ)からの短期留学生を受け入れる。 ・機構協定校のキングモンクット工科大学ラートクラバン校(タイ)からの短期留学生を受け入れる。 ・本校協定校のフェデレーション大学(オーストラリア)からの短期留学生を受け入れる。 <p>・トビタテ！留学JAPANによる海外研修に学生を参加させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外の企業または大学における海外インターンシップに学生を参加させる。 ・海外インターンシップ等の実績をホームページ等で公開するなど、参加希望者の増加に向けた取り組みを行う。 <p>・受入れ留学生の学習環境及び居住環境の維持向上に努める。</p> <p>・本校に在籍する外国人留学生に対する研修会や交流会を開催し、我が国の人々や文化、自然に触れる機会を設ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ISATE2017(シンガポール、9/19～22)に教員1名が参加し、研究成果を発表した。 ・JICA北陸の教師海外研修(フィジー、7/25～8/4)に教員1名が参加した。 ・本校協定校のプリンスオブソクラ大学工学部(タイ)からの短期留学生1名を5/29～7/21の期間、機械工学科で受け入れた。 ・機構協定校のキングモンクット工科大学ラートクラバン校(タイ)からの短期留学生2名を6/19～7/14の期間、環境都市工学科で受け入れた。 ・機構主催のファシリテーションスキル&インターンシップ経験英語研修(シンガポール、9/10～19)に学生1名が参加した。 ・福井県越前町主催「マレーシア大学生招聘事業」の活動に協力し、10/12に大学生15名と引率教員3名が来校し、学内見学と本校マレーシア人留学生との交流を行った。 ・本校協定校のフェデレーション大学(オーストラリア)からの短期留学生を12月に受け入れ予定であったが、先方の都合により中止となった。 <ul style="list-style-type: none"> ・トビタテ！留学JAPANの高校生コース(アメリカ、7/16-8/6)に本科3年生1名が、地域人材コース(ドイツ、8/18-9/17)に専攻科1年生1名が参加した。 ・専攻科1年生の海外インターンシップにおいて、1名が増永眼鏡株式会社(マレーシア、8/20-9/17)、また、1名が井上商事株式会社(ドイツ、9/4-15)にて研修を行った。 ・11/9に「学生と教員の海外研修報告会」を学内で開催し、トビタテ！留学JAPANや海外インターンシップの実績を学生や教職員に公開し、参加希望者の増加に向けた取り組みを行った。 ・11/10に「トビタテ！留学JAPAN地域人材コース説明会」を学内で開催し、福井県担当者による説明を交えて今後の同事業への申請を促した。 ・次に示す書類の作成と掲示等を行い国際交流活動の啓発を行った。①海外留学や研修の概要を記した「海外にトビタツための制度一覧表」、②平成28年度に行った「オーストラリア研修旅行報告書」、③平成28～29年度に海外研修を行った学生が作成した「海外研修帰校届」 ・平成29年度の海外インターンシップの実績をホームページに掲載して周知を図り、海外インターンシップへの参加を促している。 <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の1人が原級留置となり、寮を出たが学習面で立ち直ることができず、退学となった。進路に関するミスマッチが原因の一つと考え、今後は留学生に対する学習・生活支援の強化として、担任、学科長との緊密なコミュニケーションを推めることとした。 ・男子留学生用の南寮1階、女子留学生用の北寮については、居室や補食談話室、LANなどを含めた生活環境・学習環境について、随時整備を行っている。また、男女ともに短期留学生についても充分に対応可能な環境を常に準備している。 <ul style="list-style-type: none"> ・9月30日に北陸地区高専間留学生交流会を実施し、北陸地区高専に在籍している外国人留学生の交流を図った。本校からは8名の留学生が参加した。 ・10月12日に福井県越前町に研修に来ているマレーシアマラ公社からの研修生15名に対して学校説明を行うとともに、本校留学生との懇談の場を設けた。 ・マレーシア政府派遣留学生が起こした交通事故に対する処理及び事後の対応をマレーシア大使館と密な連絡を取りながら対処した。
4 管理運営に関する事項	<p>4 管理運営に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長のリーダーシップのもと、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。 ・報告・連絡・相談がスムーズにでき、PDCAが円滑に回るような運営体制の維持と向上に努める。 <p>②-1 運営会議等を通して、学校運営に関する基本的な意見を聴取するとともに、個人的な事項に関しては、校長による教員面談及び事務部による個人面談等により意見を聞き、本校における今後の管理運営の参考とする。その他必要に応じて、ブロック校長会議などにおいて広域的な視点で意見交換を行う。</p> <p>②-2 管理職研修会に主事クラスの教員を派遣する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校長のリーダーシップのもと、戦略的かつ計画的な資源配分として、15件4,430千円を配分した。 ・運営連絡会、学校運営会議で決定したことを教員会議で全教員に伝え、それぞれの会議の場で意見等を聴取し、常にPDCAが円滑に回る体制を維持し、向上を図っている。また、事務系についても、事務連絡会議を開催し、情報伝達、意見聴取を行っており、常にPDCAが円滑に回る体制を維持し、向上を図っている。 ・池田中学校の自殺事案を期に、全教職員に教員会議においてメンタルヘルスの重要性を啓発するとともに、9月に福井大学から専門家を招へいして「思春期・青年期の心の病」と題した講演会および意見交換会を実施し、教職員60名が参加した。 <ul style="list-style-type: none"> ・7月下旬から8月上旬にかけて、校長による教員面談を実施した。また、4月下旬から5月中旬及び10月に事務部において職員の個人面談を実施した。 ・9月に開催された機構主催「教員管理職研修」に校長補佐1名を派遣した。 ・9月に開催された機構主催「学生指導支援実施責任者研修」に副校長1名を派遣した。

第3期中期計画 平成29年度年度計画・実績報告

	福井高専 平成29年度 年度計画	福井高専 平成29年度 年度計画実績報告
	会議時間の短縮を図るために資料の事前配布を行うことを校内に周知するなど、事務の合理化・効率化について引き続き積極的に取り組んでいく。また、事務部門のペーパーレス化を推進するため、全執務室での無線LAN利用環境を整備することで、ペーパーレス会議の実現を検討する。	・学校運営会議、教員会議について、資料は会議日の前日に配付し、確認を依頼しており、効率化を図っている。なお、当日配付・回収資料については、プロジェクターを使用する等ペーパーレス化に向けた方策を図ることとした。
	<ul style="list-style-type: none"> ・機構本部が作成した、コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用して、教職員のコンプライアンス意識の向上を行う。 ・普段の情報共有体制を精査し、Fail-Safeの機能充実に務める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新任教職員オリエンテーション(4月3日及び9月1日開催)の際、コンプライアンスに関する講習を行い、コンプライアンス意識の向上を図った。 ・総務課長より、教員会議(6月28日開催)及び研究推進委員会(9月28日開催)で公的資金の適正な管理及び執行について周知した。 ・会計監査人による地区別研修会(テレビ会議1月31日開催)において、有限責任監査法人トーマツより「公的研究費の不正防止に関するコンプライアンス研修」が開催され、総務課財務系職員が受講し、コンプライアンス意識の向上を図った。 ・東海・北陸地区会計系事務職員ブロック研修会(テレビ会議2月27日開催)において、公正取引委員会事務総局中部事務所経済取引指導官が講師となり「官製談合防止法」の説明会が開催され、総務課財務系職員が受講し、コンプライアンス意識の向上を図った。 ・3月23日に総務課長が講師となり全教職員を対象として「教職員の意識向上のためのコンプライアンス講習会」を開催した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・高専相互会計内部監査を実施し、他高専と情報を共有して必要な事項は速やかに改善する。また、学内定期監査も実施し、適正な執行状況の維持に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度高専相互会計内部監査として、平成29年10月30日～31日、長野工業高等専門学校から監査を受けた。また、同年11月28日～29日、石川工業高等専門学校において監査を行い、併せて両校と会計事務関係等の情報交換を行った。また同年12月から平成30年1月までの間、総務課職員による学内定期監査を実施し、不正経理の防止に努めた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年3月の理事長通知「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策の徹底について」及び「公的研究費の管理・監査のガイドライン(平成26年2月18日改正)」の実施を徹底し、不適正経理を防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての場において、教員発注を認めてはならず、必ず総務課契約係に購入依頼書を提出するよう周知徹底している。また、納品検収については、納品検収所で行っており、直接教員室へ納品することがないよう、業者に指導している。なお、新規の業者からは誓約書を依頼している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員を能力向上のための研修に積極的に参加させると共に、他機関で実施している研修会にも積極的に参加させることで、事務職員・技術職員の一層の能力向上を図る。 また、職務に関して特に高く評価できる成果のあった職員に対し、毎年度実施している校長表彰の候補者として積極的に推薦する。 	<p>(研修会参加)</p> <p><事務職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月に開催された機構主催「新任課長研修会」に学生課長が参加した。 ・7月及び8月に開催された、豊橋技大、長岡岐大、高専機構が連携して行う「グローバルSD(マレーシア・ベナン研修)第2グループ」に事務職員1名が参加した。 ・9月に開催された東海・北陸地区高専係長級事務研修会に係長3名が参加した。 ・10月に開催された文教施設応急危険度判定講習会に施設系の係長1名が参加した。 ・10月に開催された北陸地区国立大学法人等中堅職員研修会に主任及び事務職員計2名が参加した。 ・10月に開催された東海北陸地区国立高等専門学校職務勉強会(人事系)に人事労務係長、係員計2名が参加した。 ・10月に開催されたメンタルヘルス対策セミナーに人事労務係長が参加した。 ・10月から11月に開催された政府関係法人会計事務職員研修に主任1名が参加した。 ・11月に開催された北陸地区国立大学法人等新任係長・専門職員研修会に1名が参加した ・11月に開催された北陸地区国立大学法人等人事労務研修に人事労務係長が参加した ・11月に開催された労働契約セミナーに人事労務係長が参加した ・11月から12月に開催された国立高等専門学校機構若手職員研修会に係員1名が参加した。 <p><技術職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月に開催された東海・北陸地区技術職員研修会に技術職員2名が参加した。 ・8月に開催された東日本地域高専技術職員特別研修会に技術職員1名が参加した。 ・9月に開催された東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修会(物理・化学)に技術専門職員1名が参加した。 ・9月に開催された東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修会(複合領域)に技術専門職員1名が参加した。 <p>(校長表彰)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月に校長表彰選考委員会を開催、被表彰者には全教職員の前で表彰を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・事務職員の近隣大学との人事交流を引き続き積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月に福井大学との間で、係長、主任及び一般職員の計5名について人事交流を行った。

第3期中期計画 平成29年度年度計画・実績報告

	<p style="text-align: center;">福井高専 平成29年度 年度計画</p>	<p style="text-align: center;">福井高専 平成29年度 年度計画実績報告</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・学内外のセキュリティ問題を監視・対応する体制を強化する。 ・校内ネットワークシステムシステムや高専統一の各種システムなどの情報基盤について、時宜を踏まえた情報セキュリティ対策の見直しを進める。 ・今年度導入の高専統一の基幹システムの安定した運用を目指す。 ・Office365などの活用を目指し、それに沿った情報セキュリティ規定の見直しなどを検討する。 ・教職員の情報セキュリティ意識向上のため、必要な研修の受講を推進する。 ・実務担当者(情報システム管理者等)を対象とした人材育成研修の受講を計画的に推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ監査の結果を踏まえ、情報セキュリティ関係規則の見直しを行った。(安全区域を明確化した。) ・情報の移送が必要な場合は、理由を記した申請書の提出を義務付け、セキュアUSBメモリーを貸出すこととした。 ・全教職員から、情報セキュリティ強化に係る誓約書を徴収した。また、全学生からは、宣誓書を徴収した。 ・機構主催の攻撃型メール訓練に全教職員143名が参加した。 ・2018年2月 学内向けWebサービスにおいて、学外からのアクセスを許可する設定により、Webサイトへの書き込みが発生したため、高専機構CSIRTへ所定の報告を行い、再発防止策としてサーバ管理者に説明と注意喚起を行った。 ・情報戦略推進本部情報戦略責任者会議に参加した。(第1回 3/30 8名、第2回 4/25 6名、第3回 6/23 3名、第4回 7/19 1名、第5回 9/20 7名、第6回 10/20 5名 第7回 11/8 1名、第8回 12/12 6名、第9回 1/17 7名) ・3/13開催の情報セキュリティトップセミナーに校長他4名が参加し、全教職員へ動画受講を案内した。 ・高専機構CSIRTからの情報を担当者間で情報共有し、必要に応じて全教職員に周知した。 ・8/21-23 高専統一ネットワークの切替を実施した。 ・同時にセキュリティ対策として、関係者以外接続できないようネットワーク認証を導入予定であったが、導入業者の対応が遅れ、4月以降に改めて動作検証・導入を行うこととなった。 ・Office365について、7月上旬に機構全体での設定見直しが行われ、グループ公開範囲を徹底するよう通知した。 ・8/2 高専機構主催IT人材育成研修会(仮想化VMware技術)に参加(1名)した。 ・8/24 情報戦略責任者会議(長岡技科大)に参加(2名)した。 ・10/1 情報処理安全確保支援士に登録(1名)した。 ・10/25 高専機構主催情報担当者研修会に参加(3名)した。 ・2月～マルウェア対策システムを高専機構調達のトレンドマイクロに移行した。
	<p>・高専機構の第3期中期目標と中期計画に基づき策定された本校の第3期中期計画の下、各年度の計画を策定し、施策を適切に実行する。</p>	<p>・本校の第3期中期計画に基づき年度の計画を策定し、計画的に取り組んでいる。</p>
<p>成化Ⅱ すに る関業 きたす務 措める運 置に目営 取標の るを効 べ達率</p>	<p>5 業務運営の効率化に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、企画競争や公募を行う場合においても競争性、透明性の確保を図る。 ・業務運営において、一層のコスト削減、効率化を図る。 ・複数年契約が可能なものから実施し、コストの削減、業務の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般競争契約7件及び公募による企画競争契約1件について実施し、仕様策定により透明性や競争性の向上を図った。 ・平成29年度において、エレベーター保全業務を、複数年(3年)で公告し、入札及び契約を実施し、コストの縮減及び業務の効率化を図った。 ・平成29年度において、学寮のボイラー設備点検を前期・後期の年2回実施で契約したが、平成30年1月末にボイラー本体が破損し、急遽ボイラーの取替工事を実施したことから、契約変更して後期の点検を中止し、コストの縮減を図った。
<p>Ⅲ 予 算</p>	<p>6 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度科学研究費助成事業(科研費)公募要領等説明会へ研究推進委員会委員を派遣する(9月)。 ・教員の科研費申請率・採択率向上のために、科研費申請予定者事前調査を実施すると共に(7月)、科研費獲得のための講習会を開催する(9月)。 ・全教職員に科研費等外部資金公募に関する情報提供(メール配信・学内Webサイト公開)を継続実施する(随時)。 ・研究活動の活性化と科研費申請・外部資金獲得への意識向上のために、より具体的かつ効果的な研究支援・インセンティブ及び共同研究プロジェクト推進を図る。 ・全教員対象の研究活動評価調査を継続実施し、教員の研究ポテンシャルの把握と向上に努める。 ・外部資金公募情報の学内Webサイトで公開すると共に全教職員宛にメール配信し、応募の機会を逃さないような情報伝達を行う。 ・科学研究費補助金申請者・外部資金獲得者に対するより具体的かつ効果的な研究支援・インセンティブ付与制度、及び学内・学外共同研究プロジェクトの推進体制について検討し、研究の活性化と外部資金獲得に繋げる。 ・産学連携コーディネーターを活用して地元企業との共同研究プロジェクトを推進する体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に全教員対象の研究活動評価調査を実施した結果、十分な研究活動と判断されるランクの教員は本年度も昨年度と同等の58名(77.3%)の高レベルを維持した。 ・平成29年度科学研究費助成事業(科研費)の申請・採択状況については、申請件数53件、採択件数15件(新規4件・継続11件、総額15,990千円)、採択率は28.3%であり、本年度の実質的な達成度は昨年度とほぼ同レベルにとどまっている。 ・教員の科研費申請率・採択率向上のための申請予定者事前調査を7月に実施すると共に(申請予定教員61名(81.3%))、平成30年度科研費公募要領等説明会(9月)に教職員2名が参加、科研費講習会(9月)には教職員27名が受講し、全教職員に科研費等外部資金公募に関する情報提供とその内容の周知徹底を図った。 ・平成30年度科研費の申請状況は、申請教員52名(申請率68.4%)であり、一昨年度・昨年度実績47名・51名(62.7%・68.0%)に比較して増加・回復傾向にある。 ・教員の研究内容・研究水準の質的向上と科研費申請・外部資金獲得への意識向上・意識改革のために、より具体的かつ効果的な研究支援・インセンティブ及び共同研究プロジェクト推進を図った。 ・機構本部等からもたらされる外部資金の情報を学内で共有し、資金獲得に向けての努力を継続的に行った。 ・産学連携コーディネーターの橋渡しにより、地元企業と農工連携プロジェクトを推進し、平成29年度JST地域産学バリュープログラムに応募した。 ・教員へのインセンティブとして、校長裁量経費の中から研究活動実績に応じて770千円、若手研究者への支援に90千円、外部資金獲得者への研究環境整備に対する支援に1,451千円を配分している。 ・今年度は共同研究11件(計2,263千円)と受託研究費1件(580千円)を獲得した。(平成28年度実績:共同研究11件、計2,036千円)
<p>限尺Ⅳ 度入 額金短 の期</p>		

第3期中期計画 平成29年度年度計画・実績報告

		福井高専 平成29年度 年度計画	福井高専 平成29年度 年度計画実績報告
す又産V るはを 計担譲貴 画保渡重 にしな 供、財	のVI 使 途 剩 余 金	・決算において剰余金が発生した場合には、教育研究活動や学生の福利厚生の実、産学連携の推進などの地域貢献の充実及び組織運営の改善のために充てる。	・決算において剰余金が発生した場合には、独立行政法人通則法第44条第3項に基づく申請を行い、目的積立金として認められた場合には、教育研究活動の充実、学生の福利厚生の実、産学連携の推進などの地域貢献の充実及び組織運営の改善のために充てる。
	Ⅶ 備1 に 関 施 す 設 る 及 計 び 画 設 そ の 他 主 務 省 令 で 定 め る 業 務 運 営 に 関 す る 事 項	<p>・福井高専キャンパスマスタープラン2015に基づき、教育研究活動及び施設・設備の老朽化状況等に対応した改修や環境整備を積極的に推進する。</p> <p>・省エネ化対策方針に基づいて、夏季及び冬季時の空調機器の管理を徹底し省エネ化を推進する。</p> <p>・フロン排出抑制法に伴う空調機の点検を計画的に実施し、フロン漏洩防止を推進する。</p> <p>2 人事に関する計画</p> <p>(1)方針 ・高専・両技科大間の教員交流制度を活用し、教育研究活動の活性化と連携を深めると共に、教育の改善と質の向上に努める。また、教員及び事務・技術職員を対象とした各研修会等に参加させ、一層の資質向上を図る。</p> <p>(2)人員に関する計画 ・常勤教職員について、その職務能力を向上させると共に、全体として効率化を図り、学科構成並びに専攻科の在り方の見直しなどの高度化・再編・整備の検討を行う。</p>	<p>・福井高専キャンパスマスタープラン2015に基づき、平成29年度は、学内の施設マネジメントの方策として、不足している教育研究スペースを確保するため、使用していない本館1階ボイラー室を多目的演習室に改修した。</p> <p>・学内の施設マネジメントの充実を図るため、省エネに積極的に取り組んでいる。平成29年度には第一体育館アリーナ・福利施設食堂・総合情報処理センター第二演習室及び廊下の照明器具のLED化を、改修工事に併せ一般教育棟3階多目的演習室及び本館1階多目的演習室・清掃員控室の照明器具のLED化を実施した。</p> <p>・フロン排出抑制法に伴う空調機の点検を、該当する全ての空調機について平成30年3月に完了した。</p> <p>(1)方針 (研修会参加) <教育職員> ・4月に開催された機構主催「新任教員研修会」に3名が参加した。 ・8月に開催された機構主催「中堅教員研修」に2名が参加した。 ・夏にJICA北陸主催で開催された「教師海外研修(技術系グローバル人材育成コース)」に教員1名が参加した。 ・9月に開催された機構主催「学生指導支援実施責任者研修」に副校長1名が参加した。 ・9月に開催された機構主催「教員管理職研修」に校長補佐1名が参加した。</p> <p><事務職員> ・6月に開催された機構主催「新任課長研修会」に学生課長が参加した。 ・7月及び8月に開催された、豊橋技大、長岡岐大、高専機構が連携して行う「グローバルSD(マレーシア・ペナン研修)第2グループ」に事務職員1名が参加した。 ・9月に開催された東海・北陸地区高専係長級事務研修会に係長3名が参加した。 ・10月に開催された文教施設応急危険度判定講習会に施設系の係長1名が参加した。 ・10月に開催された北陸地区国立大学法人等中堅職員研修会に主任及び事務職員計2名が参加した。 ・10月に開催された東海北陸地区国立高等専門学校職務勉強会(人事系)に人事労務係長、係員計2名が参加した。 ・10月に開催されたメンタルヘルス対策セミナーに人事労務係長が参加した。 ・10月から11月に開催された政府関係法人会計事務職員研修に主任1名が参加した。 ・11月に開催された北陸地区国立大学法人等新任係長・専門職員研修会に1名が参加した ・11月に開催された北陸地区国立大学法人等人事労務研修に人事労務係長が参加した ・11月に開催された労働契約セミナーに人事労務係長が参加した ・11月から12月に開催された国立高等専門学校機構若手職員研修会に係員1名が参加した。</p> <p><技術職員> ・8月に開催された東海・北陸地区技術職員研修会に技術職員2名が参加した。 ・8月に開催された東日本地域高専技術職員特別研修会に技術職員1名が参加した。 ・9月に開催された東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修会(物理・化学)に技術専門職員1名が参加した。 ・9月に開催された東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修会(複合領域)に技術専門職員1名が参加した。</p> <p>(2)人員に関する計画 ・将来構想専門部会において、10年先を見据えた新しい体制についての中間報告をまとめた。</p>